

大会宣言

全国訪問教育研究会第31回大会は、新潟で2回目、三条市での開催となりました。初日の開会行事では、愛媛から、豪雨被害の状況とともに、地域におけるネットワークや支え合いについて報告がありました。全訪研が大切にしてきた、一人ひとりのいのちを守るために人と人とをつなぐ取り組みの大切さをあらためて確かめることができました。シンポジウムでは、今大会のテーマにふさわしく、医療、教育、福祉の立場から、訪問教育の可能性を展望する報告と議論がなされました。医学やテクノロジーが大きく進歩するなかで、子どもの発達を支えるために、ほかにゆずり渡すことのできない教育の役割があることを学びました。

2日目の分科会では、子どもの学びを支えるからだやコミュニケーションへのアプローチ、子どもたちがかけがえのない文化と出会い、世界を広げることのできる授業づくり、重い障害があっても地域のなかで豊かに生活することのできる仕組みや関係者のネットワークを築いていくための課題を学び合い、訪問教育の未来を語り合いました。

人間の価値は、「生産性」があるかどうかで決められるものではありません。訪問教育は、子どもたちの「よりよく生きたい」「学びたい」というねがいに学びながら、人間は「生きていること」そのものに価値があること、どんなに重い障害があっても、幸せに生きることができるということを確かめ合ってきました。すべての人のいのちと尊厳が大切にされる社会の実現にむけて、障害のある子どもたちとともに生きることの喜びを分かち合いながら、訪問教育の実践と研究を前に進めていきましょう。

みんなで まもっていこう ちいさないのち
生きているもの みんなが しあわせになるように

2018年8月8日

全国訪問教育研究会第31回全国大会 参加者一同